

1・2月号
真宗大谷派 長浜教区
第24組

広報

発行日
2012年1月1日
第145号
発行責任者
組長 紘澤成互

新年明けましておめでとうございます



今年は、親鸞聖人800回忌に向けて新たな一步を踏み出す年となります。

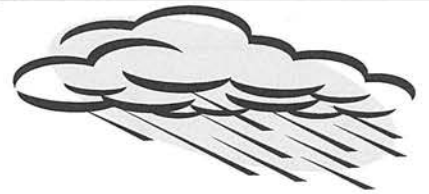
聖人のみ教えはご著作の「教行信証」に示しておいでになります。歎異抄には、関東のお弟子方に語りかけられるお言葉「弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて念仏申さんと思ひ立つ心の起こる時、攝取不捨の利益に預けしめ給うなり」と記されています。このみ教えに支えられて、同行の方々が生き生きと生活されたように感じ取れます。さらに、江戸時代には三度の飢饉がありました。そうした苦難の中を念仏の教えと同行の繋がりに支えられて生き抜いて下さった先達が居られたのです。

今、3.11の大地震・大津波と伴って発生した原発の被害は、計り知れないものがあります。科学万能・経済的豊かさのみを追求する私たちの生き方が問われています。この災害の後、当派の僧侶が蓮如上人の名号を若者に持ってもらってお勤めをされたそうです。「気がついたら、後にたくさん若者たち（皆19から20代の自衛隊・警察・消防の方々）が、涙を流して合掌されていた」と報告されています。

私達が「み光の下」と食前の言葉で唱えますが、この言葉は食前の時だけでなく、生きることそのものが「み光の下」にあるのです。私の身口意の仕業を常にみ光の下にさらけ出して慚愧の心を育てるよう努めようではありませんか。

組長 紘澤成互

念頭ごあいさつ



日頃は、長浜教区第24組の教化諸事業に対し、ご指導ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。 昨年は、宗祖親鸞聖人の750回御遠忌が、真宗本廟において厳修されました。 この得がたき御遠忌に遭い得たことで、改めて親鸞聖人を宗祖として仰ぐ私たちが、今一度聖人の「本願」の教えに立ち返る良き機縁でありました。

聖人の御真影まします真宗本廟で、正信偈の同朋唱和は正しく宗門の念仏の大教団であり、一段の熱い思いがこみあげ感無量でした。 東北地方大震災の被災者への祈りを込めた唱和でもありました。 なお、11月には、親鸞聖人の750回御正當報恩講が厳修され、御遠忌に続き非常に多くの方々が参拝されました。



第24組 門徒会長

山岡正幸

近年、少子高齢化、過疎化の進行により、無住寺、廃寺、門徒の寺離れ等が問題視されている。このような現実を重視し、私たち今に生きるものとして、深く受け止める必要に迫られている。真宗の教えを引き継ぐ開かれた寺を守り続けるためにも、僧侶の教法の熱き宣布、聞法会の強化を進めていただき、僧侶と門徒が一体となって寺をまもり、宗祖の教えを子々孫々に引き継いでいかなければならないと感じます。

壮年会からのお知らせ

組壮年会長 野淵 隆

壮年会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。 昨年の東日本大震災による大津波という未曾有の災害に遭われた皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

さて、私この度ご縁をいただき壮年会をお預かりして早や半年が経過致しました。 この間九月十日には黒田の明徳寺さんにおいて開催されました寺族部会主催の声明講習に壮年会も共同参画させていただき、講師の竹中慈祥先生より私たちが慣れ親しんだ「正信偈」の声明の色々をお聞かせいただきました。

湖北地方には、独特の節回しが脈々と伝承されているとの事も知りました。 今年、六月までに二回の講習会を計画しております。 三月十七日(土)には、京都の本山(真宗大谷派、東本願寺)へご参詣させていただきます。 後日、各お寺さんを通じて、ご案内をさせていただきますが、私たち真宗門徒にとって大切な、阿弥陀さんと宗祖親鸞聖人御影の法話を聴聞し、お念仏の教えにお会いし、諸殿拝観と御開山が救世観音の夢告を受けられたと言う六角堂等々を拝観させていただきます。 今一度真宗門徒としての基礎を学びたいと思っております。 皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、この一年皆様のご多幸を念じますと共に、私の今の思いを一言、 「念仏者は無礙の一道なり」

歎異抄第七条の一文です。 南無阿弥陀仏

合 掌

子ども報恩講

11月3日(祝)14組との合同企画

24組から約40人の子どもたちがバスで会場となるお寺へむかいました。開会式では総勢100人で正信偈などお勤めしました。本堂内は元気な大きな声でいっぱいになりました。その後、それぞれのグループに分かれて横山をワクワクドキドキしながら歩きました。さまざまなミッションをクリアしていくうちにはじめて会うおともだちとも仲良くなってとても楽しそうでした。

電車ミッション

大きな声で
『しゅっぱー』



出発！円陣組んで
エイエイオー！



お昼はみんなで
カレーをいただきました



カードを集めながら
進みます



集めたカードは・・・



初めての14組との合同企画では、お寺同士、ご門徒さん同士の横のつながりを勉強させていただきました。そしてスタッフが若くてノリノリ！20歳代から40歳代。子ども達も私も楽しくあった子ども報恩講でした。

最後にみんなで記念写真

(明楽寺 藤谷)



本山御正当報恩講に参拝して

木之本 明樂寺門徒 岩根妙子

昨年は、宗祖親鸞聖人750回忌に沸いた一年でありましたが、東日本大震災と相まって後世に悔いの残る年となってしまいました。この年に婦人会のお役を頂き、さまざまな経験をさせていただきました。中でも、思いがけずご縁をいただき参拝いたしましたのが、本山の御正当報恩講でした。

当日、御影堂は参拝者であふれ、御真影の近くにはいろいろな色の袈裟をまとったたくさんの僧侶が並んでおられました。静寂の中、登高座といわれる儀式が始まり、重そうな立派な袈裟をつけた導師の方が登壇し、お作法をされ読経が行われます。厳かな時間が流れ、その後お控えの大勢の僧侶の読経は、ドレミファソのラの音かと思われるほどの高くて思いつきりの声で、それはそれは壮絶なものでした。私には報恩の心が宗祖に届いてほしいと願っているように感じられ、思わず鳥肌が立ちました。また、正信偈のお勤めは、広いお堂に波打つように参拝者の読経が響き渡って、何とも感動の連続でした。



お昼には、お齋をいただきました。羽織袴姿の男性が、朱塗りのお膳を高々と押し頂きながら列をなして配膳して下さいます。お膳には、全国各地のお講から寄せられた野菜を使った、美しい料理が盛り付けられており、一ひとつ説明が加えられて、「み光のもと…」を唱和し、ゆっくり味わいながらいただきました。



この日は、思い出に残る一日となりましたが、今年は、もっと聞法に向かう習慣を身に付け、細くても長く仏法にご縁を繋げることができるよう努力したいと思っております。いつかあの感動の本当の意味が理解できるようになれば、ありがたいと思います。

豆知識

「修正会」JUNON

しゅしょうえ

日本では昨年、九千万人以上の人が初詣に出かけられたと聞いております。浄土真宗の門徒は、お正月には、まず、お手次のお寺へでかけ、「本尊にお参りし、「おあさじ」をつとめ、住職と年頭のあいさつを交わすことをならわしとしてきました。そのお正月のおつとめを「修正会(しゅしょうえ)」といいます。

修正会は、もとはお正月のはじめに、三日間から七日間、国家の安泰などを祈るために修する法会として始められたものです。私達浄土真宗でも、同じ修正会の名においてお正月のおつとめがなされてきましたが、祈禱をしない浄土真宗では、その内容・性格が全くちがうものです。しかし、今日の現状を見てみると、いつのまにか浄土真宗の修正会も、家内安全・無病息災・学業成就・商売繁盛などを祈る場と思っている人も少なくありません。

私たちの先祖は、誕生・結婚・死亡などの生涯の節目や、昼夜の一日の変わり目とともに、季節の移り変わりをも仏法聴聞のご縁として、とても大切にしてきました。

物の豊かな時代にあつて、ますます自己中心的な生活に慣らされている私たちに、新たな年を迎えて、神や仏に祈ることを必要としない「念仏申せる私に帰ることをつながしてやまないのが修正会のことです。こうした願をしっかりと受け止め、「念仏を正しく身に修める法会」の「修正会」をお勤めしましょう。

(泰)